

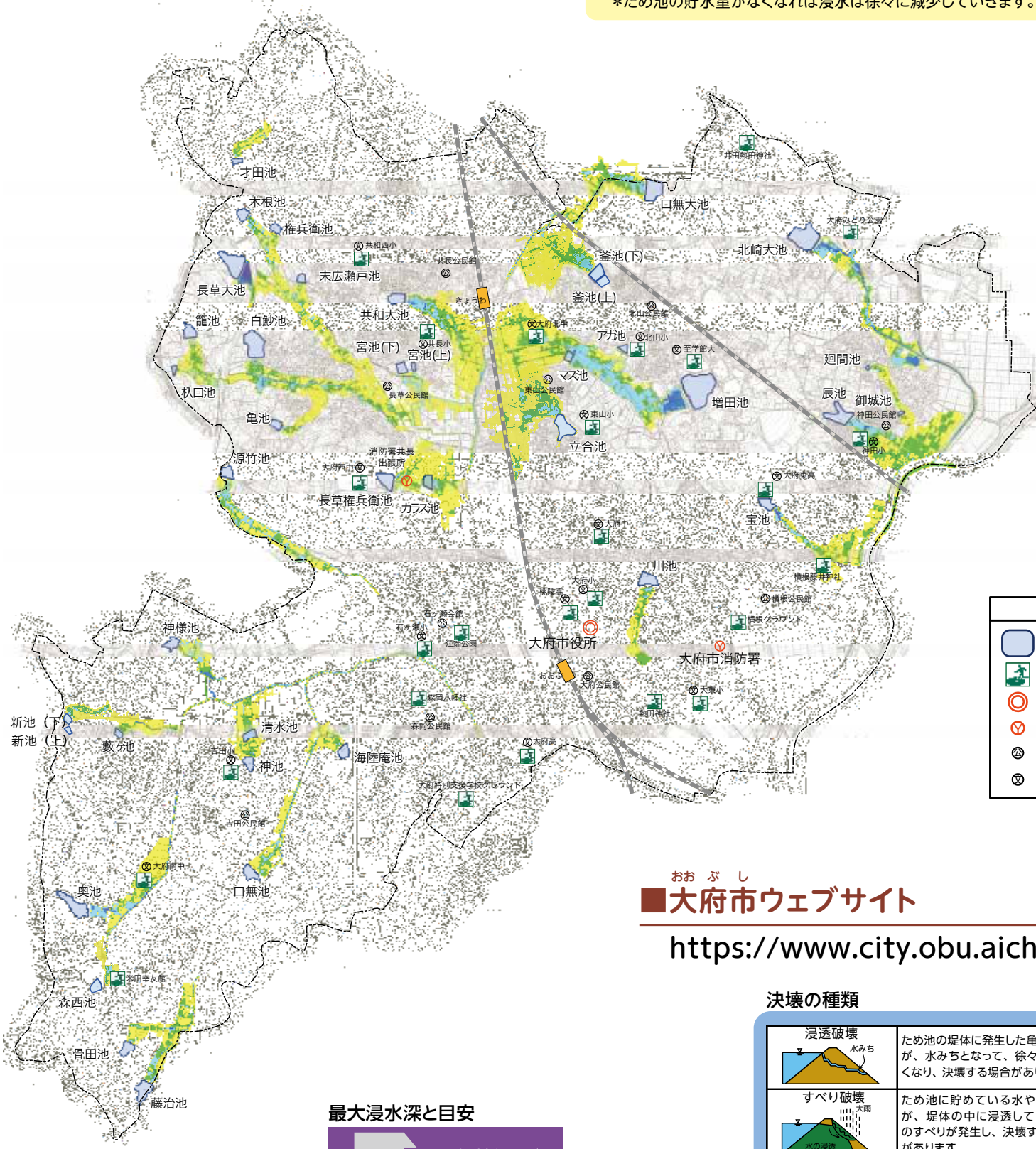
おおぶし いけ 大府市ため池ハザードマップ

自然災害によりため池が決壊した場合に、氾濫した水がどれほどの深さで、どのように広がるのかを予測した浸水想定区域と最大浸水深を示したものであり、ここに表示されているため池がただちに危険であることを示すものではありません。

このマップを見て、ご自宅や通勤・通学経路など生活圏内に浸水被害の危険があることを事前に把握し非常時に備えることが重要です。

マップの注意点

- *自然災害により満水位のため池堤体中央部が一度に決壊したという想定です。
- *実際の浸水区域は、浸水想定区域と異なることがあります。
- *市内40池のすべての水が下流へ流れてきた場合に想定される最大浸水深を示しています。
- *実際の浸水は時間の経過とともに徐々に広がっていきますが、その中で最も深い水深を表しており、浸水想定区域全体で同時に発生するものではありません。
- *大雨時には周辺の河川等が氾濫し、この図で示した範囲を越えて浸水することも考えられます。
- *ため池の貯水量がなくなれば浸水は徐々に減少していきます。



凡例	
	氾濫想定ため池
	震災避難広場
	市役所
	消防本部/分署
	公民館等
	学校

おおぶし 大府市ウェブサイト

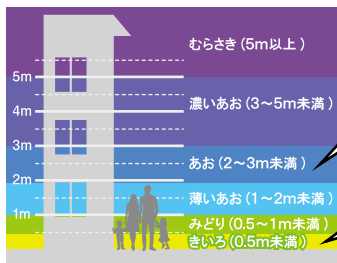
<https://www.city.obu.aichi.jp/>



決壊の種類

	ため池の堤体に発生した亀裂などが、水みちとなって、徐々に大きくなり、決壊する場合があります。
	ため池に貯めている水や雨などが、堤体の中に浸透して、斜面のすべりが発生し、決壊する場合があります。また、地震により堤体がゆられることにより、斜面のすべりが発生し、決壊する場合があります。
	大雨などにより、ため池に貯めている水が、堤体を越えてあふれ出し斜面を削りとり、決壊する場合があります。

最大浸水深と目安



浸水が少ない場所や外に出ることが危険な場合は、家の2階へ避難することも考えましょう。

歩ける水深の目安はひざくらいまでですが、流れが速いときは水深が浅くても大変危険です。



0 250 500 1,000 1,500 2,000 m

令和6年10月作成